

鎌倉古道ハイライトと天王森の野草と遊水池の野鳥

日時:2020年3月7日(土)10時-16時 天候:曇り

集合:相鉄線いずみ中央駅

参加者:平石(L)、勅使河原(SL)、平嶋、小作(班長)、常盤、熊坂、青松、平山、小林、志村、桑名、長廣、滝川、村上(班長)、高橋友、鈴木孝、吉田正、富谷、原田、佐々木貴、佐々木忠 計21名

歩行数/歩行距離: 19,000歩/約14km

この日は春寒で昼間でも気温が低く、ダウンジャケットを手放せない天候でした。

前半は、泉区内を流れる泉川沿いの公園、史跡、寺社などを巡りました。公園としては、中世の城跡がある“和泉中央公園”、華やかな「いずみ桜」が見頃の“いずみ桜広場”、野草の庭がある“天王森泉公園”、更にビオトープなどがある“境川遊水地公園”を訪れました。一方で、泉小次郎伝承地の“長福寺”、江戸時代以来の歴史を刻む“中之宮佐馬神社”や“宝心寺”、鎌倉開府以前からの社と言われる“第六天神社”などを見学しました。

後半は戸塚区に移動して、欽明天皇代(古墳時代)の創建と伝えられる“俣野神社”、本殿の朱色が鮮やかな“春日神社”でお参りをし、次いで旧ドリームランド(遊園地)の跡地に造られた“俣野公園”と宇田川中流部に落下する滝がある“まさかりが淵”を訪れた後、「中村三叉路」のバス停でそれぞれ帰途に就きました。

個人的に印象に残ったのは、地元固有の早咲き桜である「いずみ桜」、境川遊水地で見かけた「バン」呼ばれる真っ黒な色の水鳥、神の使いとされる「鹿たち」が飼われている春日神社の神鹿苑などでした。

<フォトレポート> 吉田正勝



境川に架かっている上俣野橋の上に並んだ参加者一同



いずみ野中央駅前を流れる泉川。
ここから下流沿いの観光スポットを散策しました。



最初に訪れた蚕御霊神塔（かいこごりゅしんとう）。
江戸時代末期の天災で死滅した蚕の慰霊塔です。



SLの指導により泉中央公園で行われたストレッチ体操。



園内の谷にある“泉小次郎馬洗いの池”。



泉小次郎に関する史話が記されている案内板。



長福寺入口には小泉小次郎伝承地の木製記念碑あり。



長福寺の本堂。このお寺は、臨済宗円覚寺派です。



中之宮左馬神社。本殿は総けやき造りです。



この神社には、道祖神の石碑もありました。



次に訪れた宝心寺でした。浄土宗のお寺です。



宝心寺の本堂。



宝心寺の手前には、椿の大樹がありました。



四谷湧水。湧き出る水はチョロチョロでした。



泉川に沿って歩くメンバー達。



第六天神社の参道。



第六天神社の社殿。



境内の谷にあった“酒湧池”と言う粋な名称の遊水池！



「いずみ桜」が爛漫の花を開いた“いずみ桜広場”に集合している参加者達



たわわに咲いている「いずみ桜」



「いずみ桜」の接写写真



いずみ桜広場後方の“鍋屋の森”



天王森泉公園。ここでランチ休憩を取りました。



ランチを終えて休憩中の面々。



天王泉館の案内板。



公園内の野草の説明するガイドさん。

【天王泉館について】この建物は、1911年（明治44）年5月に清水一三氏によって興された清水製糸場の本館として建設されました。その後、昭和6年頃に本館の左側半分が500m北から現在の敷地に移築され個人の住宅として利用されていました。平成9年に公園整備に際して、製糸場本館当時の姿を再現し、「天王森泉館」として名づけ拠点施設として活用しています。（公式ホームページより抜粋）



裏庭の湧水地



寒咲アヤメ



クリスマスローズ



ミニ水仙



行者ニンニク



福寿草



野草園の全景



竹林もありました。



ガイドさんの丁寧な説明に感謝して、
野草園に別れを告げました。



泉川遊水地公園の眺望



小川の底にカワニナが見えました。



水辺に浮かぶ鴨ほどの大きさと真っ黒な姿の「バン」。



境川遊水地 情報センターに入館して、この遊水地で観察される生物について学びました。



ここから戸塚区です。このお堂は、平安時代末期の武将、俣野五郎景久に由緒のある観音堂です。



欽明天皇を神として祀る俣野神社の社殿の正面。



俣野神社の前で、御利益を祈りながら記念撮影。



鮮やかな朱色が美しい春日神社の拝殿



供養するひな人形が並んでいる陳列棚。



この神社には“神鹿苑”が付設されており多くの鹿が遊んでいました。



旧ドリームランドの跡地、俣野公園の横浜薬大スタジアム。全国高等学校野球選手権神奈川大会が開かれます。



その後、宇田川に沿って歩きました。



宇田川中流にある“まさかりが淵”の滝。

後記：

泉区は誕生したのは33年程前のことですが、“泉区”の名称が鎌倉時代の武将、“泉小次郎”と関係があるのか否かにつき関心を持ち、調べて見ました。しかし、その由来は泉小次郎とは関係がありませんでした。実際には

この地区には遊水池が多く“泉が湧き出るように若い力を生み出し、未来に向けて発展する区であることを祈願し、簡潔で語調もよい「泉区」に決定した。”とのことでした。今回のウォーキングコースでも、泉中央公園の馬洗いの池、四谷湧水、第六天神社の酒湧池、天王森泉公園の湧水池などがありましたので、成程と思いました。

以上